

令和6年度 授業改善推進プラン

青梅市立西中学校

教科名

理科

科

1 生徒の実態

1年	2年	3年
○学習内容の定着に個人間で大きな差がある。また、計算問題に苦手意識のある生徒が多い。 ○タブレット機器を用いた資料作成に慣れている。 ○思考、判断したことを文章で表すことが苦手な生徒が見られる。 ○授業や実験に対して積極的に取り組む様子が見られる。また普段の授業も集中して取り組んでいる生徒も多い。	○授業に集中して受けている生徒が多くみられるが、発言などは1学年時と比べ、少なくなったと感じる。 ○学習内容の定着に個人間で大きな差がある。また、計算問題に苦手意識のある生徒が多い。 ○「科学的な事象への関心・意欲・態度」は良好であるが、積極性に欠ける。	○「基礎的・基本的な知識・技能」では、学習内容の定着に個人間で大きな差がある。 ○「科学的な思考力・判断力・表現力」は間違えることを避けようとし、自分の考えを表すことに消極的な生徒が見られる。 ○「主体的に学習に取り組む態度」は、実験に対して積極的に取り組む様子が見られる。また普段の授業も集中して取り組んでいる生徒も多い。

2 指導上の課題

1年	2年	3年
○授業の目標に対して、結果を踏まえて自分の意見を考え、話したり書いたりできるようにする。 ○基礎的な内容を定着させる必要がある。 ○知識の習得が苦手な生徒への課題を克服する指導が必要。	○実験を基に、結果や考察を自分の言葉でまとめる力を高める。 ○知識の習得が不十分な生徒への課題を克服する指導が必要である。	○実験を基に、結果や考察を自分の言葉でまとめる力を高める。 ○知識の習得が不十分な生徒への課題を克服する指導が必要である。 ○グループでの話し合いなどを通し、自分の意見を考え表現する指導が必要である。

3 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
○身近な自然の事象を提示し、生徒が興味・関心をもち、授業に取り組めるようにする。 ○明確なねらいを提示し、観察、実験などを通して、自分の意見を考える機会を設ける。 ○基礎力の定着を図るために授業で小テストを実施するなど、反復練習を実施する。 ○計算が含まれる内容は、簡単な例から教えていく。 ○ICT 機器を利用し、自分の意見を表現しやすい環境をつくる。	○基礎力の定着を図るために授業で小テストを実施するなど、反復練習を実施する。 ○ねらいを明確に提示し、授業の目標を認識させる。また、授業内でも狙いの確認を行う。 ○ICT 機器を利用し、自分の意見を表現しやすい環境をつくる。 ○宿題や課題を用いて家庭学習の時間を増やし継続した学習時間の確保を目指す	○ねらいを明確に提示し、授業の目標を認識させる。また、授業内でも狙いの確認を行う。 ○教材を身近なものを用いるなど、生徒が興味関心をもてるよう工夫を行う。 ○生徒一人一人の基礎力の定着を図るために授業で復習プリントを行う。また、小テストを実施するなど、反復練習を実施する。 ○ICT 機器を利用し、自分の意見を表現しやすい環境をつくる。